様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　９ 日現在

機関番号：１７７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ０１０３８

研究課題名（和文）越境するユダヤ人：近世イタリアにおけるユダヤ人の改宗に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Basic research on the conversion of Jews in early modern Italy

研究代表者
藤内　哲也（Tonai, Tetsuya）

鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授

研究者番号：６０３６３６０２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、ゲットーによりユダヤ人とキリスト教徒の間の「分離に基づく共生」が確立した近世ヴェネツィアにおいて、ユダヤ人がキリスト教に改宗した事例に着目し、その社会的、宗教的背景について考察した。ユダヤ人の改宗は貧困からの脱出や社会的上昇を目的としたが、改宗後もユダヤ社会とのつながりを維持し、両属的なアイデンティティを保持して「分離に基づく共生」の基盤を浸食していた事例や、男性改宗者の母や妻が必ずしも改宗に同意せず、改宗をめぐるジェンダー間の差異が看取できる事例もあるなど、ユダヤ人vsキリスト教徒という二元論的な解釈では捉えきれない両者の可変的で重層的な関係性について一定の展望を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は、前近代ヨーロッパ・地中海世界におけるユダヤ人とキリスト教徒との関係を非対称的な「共生」として再検討しようとする近年の潮流を受け、ゲットーによって両者の空間的、社会的な分離が確立していた近世ヴェネツィアにおいて、境界を越えてキリスト教に改宗したユダヤ人に着目し、その存在を通して浮かび上がってくる「共生」の具体相を考察した点に学術的な意義を有する。こうした視座に基づく研究は、ともすれば対立か共生か、排除か寛容かという二項対立によって捉えられがちな異教徒・異宗派や異民族間の関係性を多角的、複眼的に検証するための視座を提供する社会的な意義を持ち得ると考えている。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on cases of Jewish conversion to Christianity in early modern Venice, where the ghetto established a 'coexistence based on separation' between Jews and Christians and examines the social and religious context of their conversion. Jews converted to escape poverty and to achieve social success. Some converts maintained links with Jewish society after their conversion and retained their ambivalent identity. These cases were meant to erode the foundations of 'separation-based coexistence'. In other cases, the mothers and wives of male converts did not always agree with the conversion, and gender differences over conversion could be detected. Therefore, this study points to a variable and multi-layered relationship between the Jews and Christians that cannot be captured by a dualistic interpretation of Jews vs. Christians.

研究分野：中近世イタリア史

キーワード：ユダヤ人　ゲットー　ヴェネツィア　改宗　分離に基づく共生　強制洗礼　近世

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ヨーロッパ・地中海世界のユダヤ人に関する歴史研究では、ユダヤ系の研究者を中心に、ユダヤ人に対する差別・迫害の側面が強調されてきた。しかしながら近年では、そうした差別や迫害の事実を認めつつも、宗教的なマイノリティとしてのユダヤ人の存在を、マジョリティを形成するキリスト教徒との一種の「共存」や「共生」として理解し、その具体相を明らかにする視点が優勢になりつつある。

近世イタリア都市社会をおもな研究対象とする申請者も、1516 年にゲットーを成立させたヴェネツィアを具体例として、ゲットーの創設と拡大や、ユダヤ知識人レオン・モデナの人的関係等について考察することで、ゲットーにはユダヤ人の隔離とともに、経済的利用のために都市に定着させるという両義性があり、結果としてユダヤ人の信仰や伝統文化を保持する役割を果たしたこと、またキリスト教徒とユダヤ人の宗教的・社会的な指導者間には、知的な交流やパトロネイジ関係など、多様で重層的な関係性が形成されていたことを指摘した。

こうして近世イタリアのユダヤ人の存在は、ゲットーへの隔離によって特徴づけられ、いわば「分離にもとづく共生」が確立していた。しかしながら他方で、ゲットーに暮らすユダヤ人のなかから、キリスト教へ改宗するものも登場する。宗教はユダヤ人のアイデンティティの基盤をなし、ゲットーではその信仰が容認されていたにもかかわらず、彼らはなぜ改宗したのか。

こうした改宗ユダヤ人に着目し、その社会的、経済的な動機や宗教的、文化的な背景を明らかにすることは、キリスト教徒都市民とユダヤ人との関係に見られる多様性や重層性についての考察をさらに発展させることにつながると考え、本研究の開始に至った。

２．研究の目的

ヴェネツィアをはじめとしたユダヤ人の改宗については、これまでのユダヤ史研究においても取り上げられてきた。しかしながら、たとえば 15 世紀末のイベリア半島におけるユダヤ人追放にともなう偽装改宗や、そうした新キリスト教徒（隠れユダヤ教徒）によるイベリア半島脱出後の再改宗、あるいはユダヤ人迫害の一環としての強制的・暴力的な改宗など、従来はユダヤ人に対する抑圧・迫害の文脈で、強制的・集団的な改宗に着目されることが多かった。

それに対して、本研究の目的は、「自発的」な改宗を含めた個別的な事例を集積し、その背景にある政治的・経済的・社会的・宗教的な状況や、キリスト教徒都市民とユダヤ人との間で展開される不断の接触や交流、あるいは摩擦やトラブルについて明らかにすることで、都市社会のなかで「共生」するキリスト教徒とユダヤ人の動的・多面的な関係の具体相について考察することにある。とりわけ、16 世紀前半にゲットーが創設、拡大され、「分離に基づく共生」が他のイタリア都市に先駆けて確立したヴェネツィアを対象に、

①特に自発的・個別的なユダヤ人の改宗をめぐる具体的な事例

②ヴェネツィア政府、都市住民、教会・教皇庁の対応

について解明すること目指した。

こうした視点はさらに、ゲットーの存在がキリスト教徒都市民とマイノリティたるユダヤ人との間の空間的、社会的に隔絶されていると理解されがちな近世イタリア都市社会において、両者を分かつ境界（ボーダー）がけっして固定化されておらず、改宗という現象を通じてユダヤ人が直接的に移動するほか、また両者の間に多様な関係が重層的に形成されている状況を明らかにすると予想される。その結果、ゲットーに暮らすユダヤ人の隔離・迫害か、あるいは共生・共存かといった二元論的な解釈ではなく、より実態に即した理解を可能にすることが期待できるのである。

３．研究の方法

本研究では、①「自発的」・個別的なユダヤ人の改宗をめぐる具体的な事例の発掘、②ヴェネツィア政府、都市住民、教会・教皇庁の対応の考察を実現するために、以下のような方法で検討を進めた。

（１）刊行史料における改宗ユダヤ人に関する個別事例の発掘を行うために、ヴェネツィア貴族マリン・サヌートの『日記』（Sanuto, M (1879-1903), *I Diarii di Marino Sanudo*）を中心とした同時代人の記録、およびイオリ・ゾラッティーニによって編集された、ユダヤ人改宗者に対するヴェネツィアの異端審問関係文書（Ioly Zorattini, P. C (1980-99), *Processi del S. Uffizio di Venezia contro ebrei e giudaizzanti*）の読解と分析を行った。

（２）ヴェネツィアおよびローマの文書館において、以下の未刊行史料を閲覧し、その内容を分析することを計画した。

○ヴェネツィア国立古文書館におけるユダヤ人管理当局（Cattaveri）文書（Archivio Stato di Venezia, Cattaveri）におけるユダヤ人の改宗およびユダヤ人の社会・宗教生活に関する記録

○ヴェネツィアにおけるカトリック教会・司教関係文書（Archivio della Curia Patriarcale (Venezia)）におけるユダヤ人の改宗および改宗者のカトリック教育に関する記録

○ヴァティカン文書館におけるヴェネツィア派遣教皇特使文書（Archivio Segretario del Vaticano, Dispacci del nunzio a Venezia alla Segretaria di Stato）ヴェネツィアにおけるユダヤ人改宗および改宗者による教皇庁への請願等についての記録

しかしながら、コロナ禍の影響により、研究期間中に１度しか渡伊出来なかったため、ヴェネツィア国立古文書館所蔵のユダヤ人管理当局（Cattaveri）文書の一部のみ閲覧し、内容の読解を進めた。

４．研究成果

（１）ヴェネツィア国立古文書館におけるユダヤ人管理当局（Cattaveri）文書（Archivio Stato di Venezia, Cattaveri）において、ユダヤ人共同体に対する調査記録の手稿史料（Inquisitori sopra l’università degli ebrei, b.19）を閲覧し、その内容を精査した。その結果、15 世紀末から 17 世紀前半におけるユダヤ人共同体に関する種々の文書の中に、ユダヤ人改宗者に関する元老院令等を確認することができた。

（２）近世ヴェネツィアにおけるユダヤ人の乳幼児への強制洗礼について、イオリ・ゾラッティーニが編集した史料（Ioly Zorattini, Pier Cesare, *Battesimi di fanciulli ebrei a Venezia nel Settecento*, Udine, 1984）を活用しながら、おもに 18 世紀の事例について考察した。本人や両親の同意のない 14 歳未満のユダヤ人に対する洗礼は、16 世紀初頭以降たびたび禁止されていたにもかかわらず、18 世紀にいたるまで散発的に発生していたが、そうした事例の大半において、ユダヤ人の家庭に雇用されていたキリスト教徒の家事使用人やゲットーで働く労働者などによって洗礼がなされていることから、こうした強制洗礼の背景には、ゲットーでの日常生活におけるユダヤ人とキリスト教徒の濃密な接触があったこと、その一方で必ずしもユダヤ人の生活や信仰に対する理解が深まっているとはいえず、キリスト教への改宗を是とする心性が、ヴェネツィア社会の下層に位置づけられるキリスト教徒都市民にも共有されていたことが明らかとなった。

（３）「自発的」な改宗ユダヤ人の事例について、Ｍ・サヌートの『日記』（Sanudo, Marin, *I Diarii di Marino Sanuto* voll.58, Venezia, 1903, ristampa, Bologna, 1970）に記載された富裕なユダヤ人指導者父子や、イオリ・ゾラッティーニの編集による近世ヴェネツィアの異端審問記録（*Processi del S. Uffizio di Venezia contro ebrei e giudaizzanti* (1548-1560), (1561-1570), (1570-1572), Ioly Zorattini, Pier Cesare, a cura di, Firenze, 1982-84）に登場する多くの改宗者について考察した結果、

①改宗の動機や目的として、貧困からの脱出や社会的上昇があること。

②多くの事例において、改宗に際してキリスト教徒側からの働きかけが看取できること。またカトリック教会は改宗希望者のための「洗礼者の家 Casa dei Catecumeni」を設立し、改宗希望者に対する教育や慈善活動を行っていたこと。

③原則として、改宗はユダヤ社会からの断絶とキリスト教社会への同化をもたらす一方向的、不可逆的な「越境」行為であること。

④にもかかわらず、改宗者のなかには改宗後もゲットーに出入りし、家族や友人との接触を維持するものや、状況に応じてユダヤ人とキリスト教徒を使い分け、両属的なアイデンティティを保持しているものもいたこと。

⑤男性改宗者の母親や妻のなかには、改宗を拒否したものや、表面上は改宗しつつもユダヤ人としての生活慣習を維持するものもいたことから、改宗をめぐるジェンダー間の相違や軋轢が指摘できること。

などが明らかとなった。

このように、本来は一回限りの不可逆的な「越境」行為としてのユダヤ人の改宗事例において、未改宗の親族やユダヤ人共同体との関係を維持し、両属的なアイデンティティを保持する改宗者が少なからず存在することは、「分離に基づく共生」の基盤をなすユダヤ人とキリスト教徒を隔てる境界線を浸食する現象として解釈することができるとの結論を得た。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 藤内哲也	４．巻 56
２．論文標題 (コメント)中近世イタリア都市史の立場から―ヴェネツィアの「外来者」・マイノリティ	５．発行年 2019年
３．雑誌名 西洋史学論集	６．最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 藤内哲也
２．発表標題 近世ヴェネツィアにおける「分離に基づく共生」ユダヤ人の改宗
３．学会等名 2021年度イタリア中近世史研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 藤内哲也
２．発表標題 近世ヴェネツィアにおけるユダヤ人の改宗
３．学会等名 第88回京都大学西洋史読書会大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 藤内哲也
２．発表標題 近世ヴェネツィアの都市文化とユダヤ人―レオン・モデナの事例から―
３．学会等名 2019年度鹿大史学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 藤内哲也
２．発表標題 近世ヴェネツィアにおけるユダヤ人の強制洗礼と改宗
３．学会等名 2019年度イタリア中近世史研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 藤内哲也
２．発表標題 近世ヴェネツィアのユダヤ人―都市社会のなかのゲットー―
３．学会等名 七隈史学会第21回大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 藤内哲也
２．発表標題 (コメント)中近世イタリア都市史の立場から―ヴェネツィアの「外来者」・マイノリティ
３．学会等名 九州西洋史学会春季大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤内哲也
２．発表標題 レオン・モデナの『自伝』を読む―近世ヴェネツィアのユダヤ人の家族と都市文化―
３．学会等名 イタリア中近世史研究会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

1．著者名 フランチェスカ・トリヴェッラート（和栗珠里、藤内哲也、飯田巳貴訳）	4．発行年 2019年
2．出版社 知泉書館	5．総ページ数 592
3．書名 異文化間交易とディアスポラ：近世リヴォルノとセファルディム商人	

1．著者名 イタリア史研究会編 藤内哲也・西村善矢・城戸照子・髙田京比子・徳橋曜・齊藤寛海・和栗珠里・山辺規子・中谷惣・佐藤公美・亀長洋子・髙田良太・三森のぞみ・大黒俊二・木村容子・北田葉子・松本典昭・石坂尚武	4．発行年 2022年
2．出版社 昭和堂	5．総ページ数 306
3．書名 イタリア史のフロンティア	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関